

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-17 教育と社会	20130587036903	●教育と社会 II(教育相 談)	和	E	田山 淳	1年,2年,3年,4年	前期	月 4	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-17 教育と社会	20130587036904	●教育と社会 II(教育相 談)	和	E	田山 淳	1年,2年,3年,4年	後期	月 4	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-17 教育と社会	20130587037302	●教育と社会 II(文学と社 会)	和	E	中島 貴 奈	1年,2年,3年,4年	後期	火 4	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-17 教育と社会	20130587037702	●教育と社会 II(身のまわ りの科学)	和	E	藤木 卓	1年,2年,3年,4年	後期	月 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-17 教育と社会	20130587038102	●教育と社会 II(芸術)	和	E	福井 昭 史	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-17 教育と社会	20130587038502	●教育と社会 II(環境と社 会)	和	E	長島 雅 裕	1年,2年,3年,4年	前期	月 3	～

[戻る](#)

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-17 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587036903	科目番号	05870369
授業科目名	●教育と社会II(教育相談)		
編集担当教員	田山 淳		
授業担当教員名(科目責任者)	田山 淳		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田山 淳, 西郷 達雄, 小川 さやか, ピーターバーニック		
科目分類	全学モジュールII科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-42		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	本授業では、教育相談の理論や歴史を中心とした基礎的知識を学習する。基礎的知識に加え、教育現場等で必要な相談に関する技法をいくつか学習する。		
授業方法（学習指導法）	講義形式（一部実習形式）		
授業到達目標	個々の児童・生徒の悩みに対応できる知識とスキルを身につける。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談の歴史と意義 2. 学校における教育相談体制と相談の進め方 3. 児童・生徒の発達に応じた教育相談 4. 児童・生徒が抱える心の問題の種類 5. 心の問題を明らかにする方法（1） 6. 心の問題を明らかにする方法（2） 7. 来談者中心カウンセリングについて（1） 8. 来談者中心カウンセリングについて（2） 9. 行動療法・行動カウンセリングについて（1） 10. 行動療法・行動カウンセリングについて（2） 11. グループエンカウンターについて 12. 心理教育について 13. 保護者への教育相談 14. 各種関係機関との連携 15. 総括 16. テスト 		
キーワード	教育相談、来談者中心カウンセリング、行動療法・行動カウンセリング		
	<教科書> ・授業内で配布するプリントを利用する。 <参考書> ・よくわかる教育相談－やわらかアカデミズム・わかるシリーズ－：春日井 敏之（編集）、伊		

教科書・教材・参考書	藤 美奈子 (編集)、ミネルヴァ書房、2011 <ul style="list-style-type: none"> ・図で理解する生徒指導・教育相談：佐々木 雄二 (著)・笠井仁 (著)、福村出版、2010 ・教育相談・学校精神保健の基礎知識：大芦 治 (著)、ナカニシヤ出版、2008 ・相談活動に生かせる15の心理技法：「月刊学校教育相談」編集部 (編集)、ほんの森出版、2004 ・教育相談－教師教育テキストシリーズ－：広木 克行 (編集)、学文社、2008 ・教育相談の理論と実際－よりよい教育実践をめざして：河村 茂雄、図書文化社、2012 ・教育相談入門－こころの科学叢書－：高野久美子、日本評論社、2012
成績評価の方法・基準等	1) 試験の結果30% 2) レポート・提出物40% 3) 出席および授業態度30%
受講要件 (履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	本講義では、教育相談とは何か、その有効性や理論・技法などを学習する。
備考 (URL)	
備考 (準備学習等)	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-17 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587036904	科目番号	05870369
授業科目名	●教育と社会II(教育相談)		
編集担当教員	田山 淳		
授業担当教員名(科目責任者)	田山 淳		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田山 淳, 西郷 達雄, 小川 さやか, ピーターバーニック		
科目分類	全学モジュールII科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	本授業では、教育相談の理論や歴史を中心とした基礎的知識を学習する。基礎的知識に加え、教育現場等で必要な相談に関する技法をいくつか学習する。		
授業方法（学習指導法）	講義形式（一部実習形式）		
授業到達目標	個々の児童・生徒の悩みに対応できる知識とスキルを身につける。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談の歴史と意義 2. 学校における教育相談体制と相談の進め方 3. 児童・生徒の発達に応じた教育相談 4. 児童・生徒が抱える心の問題の種類 5. 心の問題を明らかにする方法（1） 6. 心の問題を明らかにする方法（2） 7. 来談者中心カウンセリングについて（1） 8. 来談者中心カウンセリングについて（2） 9. 行動療法・行動カウンセリングについて（1） 10. 行動療法・行動カウンセリングについて（2） 11. グループエンカウンターについて 12. 心理教育について 13. 保護者への教育相談 14. 各種関係機関との連携 15. 総括 16. テスト 		
キーワード	教育相談、来談者中心カウンセリング、行動療法・行動カウンセリング		
	<教科書> ・授業内で配布するプリントを利用する。 <参考書> ・よくわかる教育相談－やわらかアカデミズム・わかるシリーズ－：春日井 敏之（編集）、伊		

教科書・教材・参考書	藤 美奈子 (編集)、ミネルヴァ書房、2011 ・図で理解する生徒指導・教育相談：佐々木 雄二 (著)・笠井仁 (著)、福村出版、2010 ・教育相談・学校精神保健の基礎知識：大芦 治 (著)、ナカニシヤ出版、2008 ・相談活動に生かせる15の心理技法：「月刊学校教育相談」編集部 (編集)、ほんの森出版、2004 ・教育相談－教師教育テキストシリーズ－：広木 克行 (編集)、学文社、2008 ・教育相談の理論と実際－よりよい教育実践をめざして：河村 茂雄、図書文化社、2012 ・教育相談入門－こころの科学叢書－：高野久美子、日本評論社、2012
成績評価の方法・基準等	1) 試験の結果30% 2) レポート・提出物40% 3) 出席および授業態度30%
受講要件 (履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	本講義では、教育相談とは何か、その有効性や理論・技法などを学習する。
備考 (URL)	
備考 (準備学習等)	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-17 教育と社会**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587037302	科目番号	05870373
授業科目名	●教育と社会II(文学と社会)		
編集担当教員	中島 貴奈		
授業担当教員名(科目責任者)	中島 貴奈		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中島 貴奈		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-42		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	takanan		
担当教員研究室	教育学部652		
担当教員TEL	必要があればお知らせします		
担当教員オフィスアワー	授業中にお知らせします		
授業のねらい	<p>教員になるうえで身につけておきたい漢字の常識について学び、漢字の調べ方を知ること。 漢文学が日本文学に与えた影響を具体例を通して知り、両者を比較して鑑賞できるようになること。 漢文を、日常生活にも即した身近な問題と関連づけて読むことができるようになること。 文学作品の鑑賞文を書き、他者に伝えることができるようになること。</p>		
授業方法（学習指導法）	<p>授業は、概説的な内容の講義と、受講者の発表・討議を含む演習形式をまぜて行います。 受講者には毎回、次回の授業に関する課題を出しますので、あらかじめ準備をしてきてください。 準備してきた内容にもとづいて、授業を行います。</p>		
授業到達目標	<p>日本の文化・文学などにおける中国からの影響を具体的に説明することができる。 文学作品を読んでさまざまな視点から鑑賞し、鑑賞文を書くことができる。 比較文学の手法を身につけ、作品を鑑賞できる。 漢文を身近な問題と結びつけて読むことができる。</p>		
	回	内容	
	1	オリエンテーション 身の回りの漢字・漢文学に関する問題探し	
	2	漢字①中国の漢字と日本の漢字・仮名	
	3	漢字②使える漢字と使えない漢字～新聞の不自然表記はなぜ	
	4	漢字③名前の漢字～名前をつけるなら	
	5	漢字④まとめ	
	6	漢文学①日本文学と漢文学（概説1）	

授業内容	7	漢文学②日本文学と漢文学（概説2）
	8	漢文学③日本文学と漢文学～比較してみよう1
	9	漢文学④日本文学と漢文学～比較してみよう2
	10	漢文学⑤日本文学と漢文学～比較してみよう3
	11	漢文学⑥日本文学と漢文学～比較してみよう4
	12	漢文学⑦日本文学と漢文学 まとめ
	13	漢文学⑧こんなとき、漢文ではどう考えるか 1
	14	漢文学⑨こんなとき、漢文ではどう考えるか 2
	15	漢文学⑩長崎と漢文学
	16	
キーワード	漢字、漢詩、漢文、日中比較文学、長崎学	
教科書・教材・参考書	高島俊男『漢字と日本人』（文春新書） 大島正二『漢字伝来』（岩波新書） 村上哲見『漢詩と日本人』（講談社選書メチエ） 若林力『江戸川柳で愉しむ中国の故事』（大修館書店） 加藤徹『漢文力』（中公新書）その他授業中に紹介します	
成績評価の方法・基準等	毎回の課題に対する準備内容（30%） 授業時の討議への参加態度・発表内容（40%） 小レポートの内容（30%）	
受講要件（履修条件）	漢字や漢詩漢文に興味をもっていること	
本科目の位置づけ	教員になるうえで知っておきたい漢字の常識や漢文学の基礎知識を扱う	
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）	参考資料やインターネットを利用して準備をし、授業にのぞむこと 漢和辞書（電子辞書も可）を必ず持参すること	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-17 教育と社会**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587037702	科目番号	05870377
授業科目名	●教育と社会II(身のまわりの科学)		
編集担当教員	藤木 卓		
授業担当教員名(科目責任者)	藤木 卓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤木 卓		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	t-fujiki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	藤木研究室		
担当教員TEL	095-819-2363		
担当教員オフィスアワー	昼休み		
授業のねらい	身のまわりの科学として、人そのものの技能や感覚の定量化を取り上げ、計りにくいものを計るための工夫に気づかせるのが、ねらいである。		
授業方法（学習指導法）	演習、調べ学習、グループ討議等を含む実践的な学習方法を用いる		
授業到達目標	人の技能や感覚として処理されがちな事例を、どのように定量化すると意図する結果が得られるかという視点から、提示されるいくつかの事例の定量化の方法を理解し、新たな事例に対する適切な定量化の方策を考えることができる。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 人の技能の評価1（ハサミでの切り抜き） 3. 人の技能の評価2 4. 人の感覚の評価1（近付き感） 5. 人の感覚の評価2 6. 人の感覚の評価3（画質） 7. 人の感覚の評価4 8. 現実感の評価1（VR） 9. 現実感の評価2 10. 授業メディアの評価1（チャットと通常） 11. 授業メディアの評価2 12. 授業メディアの評価3（TV会議） 13. 授業メディアの評価4 14. 人の技能や感覚の評価 15. まとめ 		
キーワード	技能, 感覚, 定量化		
教科書・教材・参考書	特に、教科書等は指定しない。 必要な資料等は、授業時に配布する。		

成績評価の方法・基準等	授業中に行う発表や、課題レポート等の結果を総合的に判断して評価する。 合格の基準は、総合点で60点以上である。
受講要件（履修条件）	
本科目の位置づけ	全学モジュールの、「教育と社会」をテーマとするモジュールIIの中の科目である。
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-17 教育と社会**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587038102	科目番号	05870381
授業科目名	●教育と社会II(芸術)		
編集担当教員	福井 昭史		
授業担当教員名(科目責任者)	福井 昭史		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福井 昭史		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-42		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	a-fukui@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部音楽棟3階		
担当教員TEL	095-819-2342		
担当教員オフィスアワー	授業等で不在が多く時間の指定ができないので、在室時ならいつでも		
授業のねらい	音楽を取り上げ、教育における芸術の役割について理解することを目標とする。音楽が教育においてどのような役割を果たしているのか、人間と音楽との関わりなどについて考察することを通して理解を深める。また、学校教育における音楽教育や音楽活動の意味を考察する。		
授業方法 (学習指導法)	講義によって獲得した知識などをもとに、与えられた課題を考察する。		
授業到達目標	文化としての音楽、音楽と人間の関係、音楽教育について理解する。		
授業内容	回	内容	
	1	"音楽の感受と鑑賞 (1) 曲想の感受" 音楽の表す情景を想像する活動	
	2	"音楽の感受と鑑賞 (2) 要素の感受" トルコ行進曲のリズムとウィーン古典派の音楽	
	3	"音楽の感受と鑑賞 (3) 様式の感受・時代的特徴" バロック、古典派、ロマン派の協奏曲の形式	
	4	"音楽の感受と鑑賞 (4) 様式の感受・地域的特徴" "リズムの特徴、スペイン・ヘミオラのリズム"	
	5	〔課題に対する討論〕人は音楽をどのように感じ取り理解するのか。音楽教育は何をするべきなのか。	
	6	"人間と音楽 (1) 生活と音楽" 音楽の起源に関する学説を裏付ける民俗音楽	
	7	"人間と音楽 (2) 音楽の変化・発展" 生活の変化と芸能の衰退・発展	
	8	"人間と音楽 (3) 心と音楽" 音楽療法と療法的音楽教育	

	9	〔課題に対する討論〕人間にとって音楽とは何か
	10	"文化の理解（１）民謡の伝播" 海上交通と歌の伝播
	11	"文化の理解（２）音楽の拡散・伝播" 大陸伝来の楽器と音楽
	12	"文化の理解（３）琵琶の歴史と様式の変化" 琵琶楽の歴史と各々の表現
	13	"文化の理解（４）三味線の伝来" 三味線の伝来と本土での改良、諸流派の出現
	14	"文化の理解（５）箏の歴史と音楽の近代化" 箏の歴史と西洋音楽の影響
	15	〔課題に対する討論〕音楽からどのような文化の在り方が理解できるか。
	16	学習のまとめ
キーワード	人間と芸術（音楽）、音楽教育	
教科書・教材・参考書	参考書：「よくわかる日本音楽基礎講座」音楽之友社	
成績評価の方法・基準等	課題に対する討論とその資料（30％）、日常の活動状況（30％）筆記試験（40％）	
受講要件（履修条件）	芸術や文化、教育に対する関心があること	
本科目の位置づけ	教育における芸術の意味の理解	
学習・教育目標	文化としての音楽、音楽と人間との関わり、音楽による教育についての理解を深める。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	人間にとって芸術・音楽とは何なのかという問題意識を持ち、関連する資料を調査しておくこと	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-17 教育と社会**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587038502	科目番号	05870385
授業科目名	●教育と社会II(環境と社会)		
編集担当教員	長島 雅裕		
授業担当教員名(科目責任者)	長島 雅裕		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	長島 雅裕		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-42		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	masahiro@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部413		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	地球温暖化のメカニズムや、放射性物質と環境との関係、エネルギー問題などを、自然科学的な側面からまずは理解する。その上で、対策の仕方に価値観が入り込むこれらの問題に対して、社会的な意思決定をどのようにすべきか考える。あわせて、随所に現れる疑似科学的な思考や商法を知ることを通して、批判的に考えることを学ぶ。		
授業方法 (学習指導法)	主として講義形式で、微分方程式を含む簡単な数式も扱う。簡単な実験や、討論なども行う。		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地球温暖化のメカニズムを理解できる。 ○放射線・放射性物質について理解できる。 ○科学的・批判的に物事を捉え、自分の意見を持ち、判断できる。 		
授業内容	回	内容	
	1	はじめに：社会における環境問題	
	2	地球温暖化(1)：地球の歴史と地球大気の生成	
	3	地球温暖化(2)：輻射の物理とオゾン層の役割、温室効果	
	4	地球温暖化(3)：大気の構造：理論	
	5	地球温暖化(4)：大気の構造：実験	
	6	地球温暖化(5)：温室効果ガスの増大と温暖化の被害	
	7	地球温暖化(6)：温暖化防止のためのとりくみ	
	8	放射線(1)：放射線・放射性物質・放射能	
	9	放射線(2)：放射線の測定と身の回りの放射線	
	10	放射線(3)：原子爆弾と核兵器	

	11	放射線(4)：原子力発電
	12	放射線(5)：放射線の健康への影響
	13	環境と疑似科学(1)：疑似科学的思考―事例を通して
	14	環境と疑似科学(2)：温暖化と放射線に関する疑似科学
	15	総合討論：私たちは何をすべきか
	16	試験
キーワード	環境、地球温暖化、放射線、疑似科学	
教科書・教材・参考書	『やっかいな放射線と向き合っていくための基礎知識』 田崎晴明(朝日出版社) 『地球温暖化 ほぼすべての質問に答えます!』 明日香壽川(岩波ブックレット) 『疑似科学とのつきあいかた』 http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/handle/10069/23093 よりダウンロード	
成績評価の方法・基準等	授業への貢献20%、ミニレポート40%、試験40%	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)	高校物理の復習をしておいてください。参考書としては、たとえば『新しい高校物理の教科書』山本明利・左巻健男(講談社ブルーバックス)などがあります。	

